

平成30年冬の交通安全県民運動青森県実施要綱

目的

本運動は、広く県民に交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けるとともに、県民自身による道路交通環境の改善に向けた取組を推進することにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的とする。

期間

12月11日（火）から12月20日（木）まで（10日間）

運動重点

- 1 子供と高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止
- 2 飲酒運転の根絶
- 3 冬道の安全運転の推進
- 4 踏切事故の防止

運動の進め方

運動を効果的に推進するため、関係機関・団体は、相互に連絡協調を図り、それぞれの業務分野に応じた、効果的な実践活動の推進を図る。

市町村は、交通安全対策協議会等の構成機関・団体と十分協議して、地域の交通実態に応じた、住民参加型の交通安全運動を積極的に推進する。

運動重点に関する主な推進項目

① 子供と高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止

(1) 幼児・児童の交通事故防止のための実施内容

- ア 通学路等における幼児・児童の安全の確保
- イ 安全に道路を通行することについての日常生活における保護者から幼児・児童への教育の促進

(2) 高齢者の交通事故防止のための実施内容

- ア 高齢者による自身の身体機能の変化に対する的確な認識とこれに基づく安全行動の促進
- イ 高齢歩行者の死亡事故の特徴（走行車両の直前直後横断等の法令違反が多いなど）等を踏まえた交通安全教育等の実施

(3) 高齢運転者の交通事故防止のための実施内容

- ア 高齢運転者に対する加齢等に伴う身体機能の変化（例えば、認知機能の低下、疾患による視野障害の増加、反射神経の鈍化、筋力の衰え）が交通行動に及ぼす影響などの安全教育及び広報啓発

高齢歩行者の違反別死者数(H29)

違反区分	人
信号無視	1
斜め横断	3
直前直後横断	2
めいてい・徘徊・寝そべり等	4
踏切不注意	1
違反なし	0
合計	11

- イ 自動ブレーキ及びペダル踏み間違い時加速抑制装置の搭載されたセーフティ・サポートカーS（略称:サポカーS）の普及啓発
- ウ 運転適性相談窓口の積極的な周知及び身体機能の低下等により安全な運転に不安のある運転者等による相談窓口利用の促進
- エ 運転免許証の自主返納制度及び自主返納者に対する各種支援策の広報啓発による自主返納の促進
- オ 70歳以上の運転者に対する高齢者マークの使用促進、高齢者マークを表示している自動車への保護義務の周知徹底
- カ 高齢者の運転に関する家庭内での話し合いの促進

② 飲酒運転の根絶

- (1) 交通事故被害者等の声を反映した広報啓発活動等を通じた、飲酒運転を絶対に許さない環境づくりの促進
- (2) 飲食店等における運転者への酒類提供禁止の徹底及びハンドルキーパー運動の促進
- (3) 飲酒運転の悪質性・危険性を理解させるなど、飲酒運転をさせない運転者教育の推進
- (4) 自動車運送事業者による点呼時におけるアルコール検知器の使用等、飲酒運転の根絶に向けた取組の実施

③ 冬道の安全運転の推進

- (1) 各種広報媒体等を通じた、冬道の特性、スタッドレスタイヤの特性、安全運転技術等の広報の推進
- (2) 運転者、安全運転管理者、運行管理者等を対象とした各種講習会を実施して冬道における交通事故防止の徹底
- (3) 道路管理者における、除雪や安全施設の整備点検及び冬道の道路交通の安全確保の促進

④ 踏切事故の防止

- (1) 踏切道の交通の安全と円滑化の推進
 - ア 踏切道予告標、踏切信号機、歩行者等のための横断歩道橋等の設置など踏切道における安全施設の整備促進
 - イ 車両等の踏切通過時の違反行為に対する対策を強化
- (2) 踏切通過方法等に関する教育の推進
 - ア 踏切前では必ず一時停止して左右の安全を確認することや、踏切でトラブルが発生した場合の非常ボタンの操作等の緊急措置についての周知徹底
 - イ 学校や自動車教習所等における、踏切の安全な通過方法等の教育の推進

エコ&セーフティドライブのすすめ

～エコドライブは環境に優しいだけでなく、交通安全につながります～

「移動」を「エコ」に。
**smart
move**

- 1 ふんわりアクセル
 - やさしいアクセル操作は安全運転につながり、特に冬道では、スリップを抑え、発進をスムーズにします。
- 2 「急」のつく運転をしない！
 - 急発進、急加速、急ブレーキは、ガソリンが無駄になるばかりでなく、事故にもつながります。
- 3 違法駐車をしない！
 - 交通の妨げになるばかりでなく、交通渋滞をもたらす、他の車の燃費も悪化させます。

